

# PHD LETTER

## 39

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1991・6

- 第8・9期研修生報告 ..... 2・3P
- 布づくりの里を訪ねる旅 報告 ..... 4・5P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじめました。

発行: 財団法人PHD協会  
 編集人: 草 地 賢 一  
 住所: 守650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202  
 TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867  
 郵便振替: 神戸1-29688 財団法人ビー・エイチ・ディー協会  
 定 価: 100円



(スリランカ)

### 国談主録

ヤシを積んだ荷車と村の小径ですれちがった。  
 ヤシをとるのを手伝った少年が  
 ちょこんと腰かけている。  
 ちょっと前まで牛がひいてたけれど、  
 今は耕耘機。  
 油代も稼がなきや。

# 8期生の1年を振り返って

8期生の1年、彼らにとってこの1年間の日本での滞在はどんなものだったのでしょうか。それぞれ個性の強い3人で、日本で出会った私たちにいろんな印象を残してくれました。

バプア・ニューギニアからやってきたレルさん。彼が日本でつかんだヒントは炭焼きと、養鶏、そして機械の修理でした。一貫して、帰国後の村づくりのため人々に伝えるものは何かを考え続け、「日本全部機械、これだめね」という彼の一言は、接した日本のお百姓さんには自分の農業を考えていく上でも強い衝撃とな

ったようです。後半にはいって、いよいよたぐさんの課題がでてきましたが、1年間の研修は短かったのかもしれませんが、まずは村で日本で学んだ有機農業を実践することも力強く話してくれました。

同じくバプア・ニューギニアから来日したヘルベさん。いつも陽気なヘルベさんも奥さんと2人の子供を残しての日本での1年間はいろんな出来事との闘いでもあったようです。今は本当に短く感じるという彼ですが、たぐさんの日本人々に支えられた1年間でした。日本の協同組合の組織に強い興味を示し、小野

市にあるふえろう村をモデルにした農業共同体を作りたいと抱負を話しています。

フィリピン・ネグロスからきたネストールさん。恋人を残しての米日は彼にとっても長い1年間だったようです。この1年間でずいぶん大きくなりました。日本で学んだ、土づくり、そして有畜複合農業のシステムを村のグループの人々に伝えていきたいと話してくれました。ドミーさんとの協同での活動が楽しみです。

これまで1年間、3人を励まし支えて下さった1人1人の皆様に心より感謝いたします。

## 研 修 生



わたしはバプアニューギニア かつて いるるむら 町の村の のりきり ぎょうどろくぬいぞ べんましたとを かぞくとむらのみとに はなします。 ヘルベ・ヨウ

末は日本ののりきりとはとてよかたに であ  
① T=127116V で できます。  
② のりきり ぎょうどろくぬいぞ べんましたとを  
③ 末は日本ののりきりとはとてよかたに であ  
そして 二れは 二の べんました 127116V へんま べんましたとを  
せいの べんましたとを べんましたとを べんましたとを  
Heater & Servando

一人ののりきりは べんましたとを べんましたとを  
そと べんましたとを べんましたとを  
ぼくは 二と 二の 二の 二の 二の  
\* すみわけ  
\* ぐうきのうきよう  
\* にめと  
ぼくは 二の 二の 二の 二の 二の  
はしめす。 ちとで べんましたとを  
それから わたしは おしえます。 二の 二の  
Lil Galo

### 8期 研修生 サムスアリスさん



家島町での漁業研修 定置網でとれた魚の酸養抜きをしているところ。 1月に来日したサムスアリスさん。日本語研修を終え、2月末より約1カ月和

歌山県海友会の手配で和歌山県串本水産試験場、和歌山市内漁業協同組合で研修。初の漁業研修ということで日本漁業の養殖技術、協同組合運営形態、網の種類など理論学習をしました。3月末よりは兵庫県家島で約2カ月研修をしました。家島には昨年スタディツアーで彼の村を訪れた中村さんがおられ、定置網、協同組合について指導を受けました。途中、漁業プログラムも家島で行われ大活躍(?)の彼。6月からは香住で研修の予定。

### 研修生短信

- 3期生ブリチャーさん(タイ・農業) 3月末とどめの3人目生まれる。娘。
- 7期生トニーさん(バプアニューギニア・農業) 子供生まれる。息子デス。
- 5期生アリさん(インドネシア・漁業) 娘生まれる4月4日。
- 4期生ユリさん(インドネシア・漁業) 7月結婚します。来て下さい。
- 6期生ワラヤさん(タイ・農業) 結婚して、ケンカしてます。

# 9期生の研修がはじまりました

5月21日から9期生も本格的な研修が始まりました。 サウエーさんは、5年連続でタイを訪れている兵庫県波賀町の田中さんのお宅で田植えを中心に研修がスタートです。昨年12月以来の再会で2人ともニコソリです。 ナンダナさんは、7期生アジャタさんたちと作ったグループのプロジェクト、乳牛の飼育を学ぶため、兵庫県春日町の中野さんのお宅へ元気にむかいました。

ラニーさんは、三木市の芝さんのグループのお母さんたちから、裁縫、料理を中心に研修に励んでいます。 ジャネットさんの希望は保育、乳・幼児への栄養、健康管理を学びたいと、兵庫県山崎町の聖旨保育園の子供たちに迎えられはりきっています。

## 9期生家庭訪問

今年は首尾よく3月末から4月初めに来日した4名の研修生。6週間の日本語勉強も終わり、それぞれの研修地へ。

ことばも覚つかないうちから、西へ東へと、10周年の記念イベントに参加しています。今年の人少しおとなしい(?)ようですが、1年でそれぞれの味が出てくることでしょう。

彼らを支えて下さる家庭での様子を伺ってみることにしました。(取材・小松みち)

## レ ポ ー ト



ラニーさん(バプアニューギニア) 津田三男さん(神戸市灘区)

津田さん一家は、4代で住んでおられ、いろんな国の方々も来られている様子。心配したのは、電気のない生活から急に日本の生活になじめるかということ。一足跳びに生活が変わるとなると、逆の立場なら逃げて帰るかも、とお父さん。言葉が通じないのは大変なこと、と随分心配をされて下さっています。その心配をよそにラニーさん、今では洗いのものしてくれる、ちゃんと心得ているのと、お母さん。気の優しい子と、皆が言う。 生魚だけダメで、他は大丈夫。お風呂はやはりつかからないようですが、本人は「すること沢山あるから」真相は?忙しい日本では仕方ないのでしょうか。



ジャネットさん(フィリピン) 児島章さん(西宮市甲子園) 児島さんちの犬のムクちゃんは、ジャ

ネットさんがお気に入り。とてもなついているし、お母さんと3人で散歩もします。

ホームシックになるのが心配で、と初めは妹の千鶴さんが妬くほどのベッタリぶり。「自分の子供と同じように」がモットーのお母さん。今は怒られることもあるジャネットさんです。

お風呂も朝型だったのが晩に入るようになり、ご飯も朝に随分食べるようになりました。お父さんがバナナをお土産に買ってきてくれました。弟の章一くんとは、家より事務所よく会うのですが、どうなってるの?フシギですね。



ナンダナさん(スリランカ) 上田耕蔵さん(神戸市垂水区)

「お元気ですか」——スリランカからの手紙の内容を聞かれて、今は日本語でこれだけわかります、とナンダナさん。

食事は、肉より魚でにぎり・カツオのたたきも食べる。玉ねぎの天ぷらが好きで日本人みたい、とお母さんと娘の文ちゃん。

「1年学ぶと自信がついて、ひと回りもふた回りも大きくなって帰れると思う

### 9期 韓国研修生紹介

リー・ジャンソップ 李長豊(30才) 韓国京畿道富川市 日本の農村、農業の現状把握及び、農村開発組織の運営をPHD事務所を基地として研修する。



これまで5年間に亘って交流を続けてきた韓国から、初めて長期の研修生を迎えることになりました。李さんは昨年、栃木県のアジア学院で農業を中心に1年間研修を受けました。わずか1年間の滞在で、8期生の3人も目を丸くするほど、上手な日本語と英語を話します。

PHDでは、事務所の運営を中心に研修する予定で、将来韓国でPHDのような団体作りを考えています。1年間よろしく願います。

よ」と話すお母さん。ナンダナさんに「おかあちゃん」と言われた時はびっくりした、と照れくさそうに話して下さった。

4人の子供さんと年もあまり変わらず、同じアジアの人だからか違和感がない、と言われる彼は、一番下の謙ちゃんを膝にのせ、お兄さんぶりを発揮。



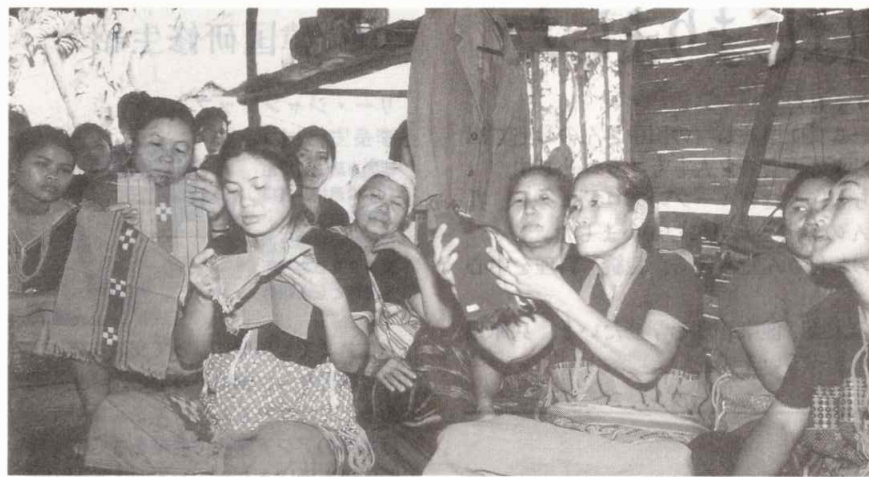
サウエーさん(タイ) 井上敬さん(神戸市兵庫区)

静かなたたずまいのお宅。家に帰ってくるとホッとすらすらしい。研修生の中で年長のサウエーさんも、家では「かわいい息子」。

お母さんは初め、苦勞してタイ料理を作っていたそうですが、10日目にサウエーさん曰く、「自分の作った野菜が食べたい!」それからは茶碗蒸しもお寿司も出すようにしているとか。

優しくて物静か。職員の心配をよそに「意志はすべて通じます。何の抵抗もないし、得たいものはちゃんと得られるから心配ない」とお父さんはキッパリ。

サウエーさんのお酒はとってもきれい。一度じっくりと彼の歌に耳を傾けたい。



山本さんが持参した沖縄のミンサー織りを手にとる村の女性たち。背後の中央には村の布を使い、日本で仕立てたジャケットが。村人はこれに大感激。

# 10周年記念事業マミメセッション第2弾 タイ・カレンの村の自立のための 布づくりの里を訪ねる旅報告

今回のソディ通信は2頁見開きのスペシャル版。10周年記念事業マチと南太平洋・アジアとムラをつなぐドレーセッションの一環として3月にタイの織り手を訪ねる旅を実施しました。布のグループをまとめるプリチャーさんを日本で指導した井上さん一家、染め・織り好きの女性陣の総勢14名がタイ北部メーサリアンの村に滞在し、布のできるまでを見、質問し、意見を交してきました。また大きな袋4つに布を持ち帰ってきました。これは今年のバザーや郵送で皆さんにおわけしたいと思います。

6泊7日の短い間でしたが、布をきっかけとして多くのことを知り、考えることができた旅になった様子を参加者の報告でお届けします。

日程 3/27-4/2(6泊7日) 行程 大阪-チェンマイ(1泊)-メーサリアン(3泊)-チェンマイ(2泊)-大阪

### ＜参加者紹介＞

- 井上昌博、敦子、朔美 研修生プリチャーさん指導家庭ご一家。5才の朔美ちゃんは元気で通すが、父ちゃんダウン。兵庫県三木市。
- 秦朱美、千尋 西日本研修旅行でPHDに出会い北九州から参加。母ちゃんダウン。
- 細野美沙子、佐藤亮子 仲良し主婦二人。日本で染め、織りをたしなむ。神戸と淡路一宮
- 福岡智子、山本香 はるばる那覇から参加。リサイクルの雑誌の記事を見て参加。
- 麻野美智子 藤井寺から。以前から布を買っていた。ツアー後のレポートがなんと400字詰で50枚！ツアー中も一番元気。
- 小松みち 職員になる事前学習を兼ねて参加。
- 藤岡佐知 ソディ中心メンバー。89年タイツアーに続き参加。今は東京に住む。
- 浅沼亨子 ツアー出発4日前に申込み。以前PHDを取材した雑誌の編集者。神戸から。
- 藤野達也 女性パワーに押され静か。職員。

### 親から子へと 伝えて欲しい

佐藤亮子(45才)

私たちが失いかけている暖い心と笑顔の人、キラキラ目が輝いている子供たち。この人たちのために私は何が出来るのか。織物をまわりの人に紹介し、少しでも多くの人に、カレン、タイ、アジアに目をむけてもらうこと、そして日本との関係を考えていこうと思う。織物をお金にかえることばかりに力を注ぐと、彼女たちは当面喜んでくれるかもしれないが、そのお金が、日本の商品の購入に使われ、また日本に戻ってくるのかもしれない。むしろこの織物をはじめカレンの伝統を

誇りをもって守っていくことのお手伝いになればと思う。

### 考える私 パート1 小松みち(25才)

出発前にソディのメンバーからあれこれ聞いて来てねと質問を用意していたが村で、その工程を見せてもらい、村の女性を前にすると、その問いがあまり意味をなさない気がした。自然と伝統を大切にと思いつつ、服に仕立てやすい幅はできないとか、草木の色が素敵といつ、色落ちを少なくせよとか。お互いの想いをあわせるということは、ある部分ではとても難しいことなんやと実感した。



綿の種をとりぞく



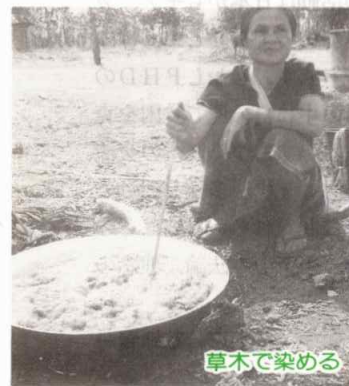
綿をほぐす



木の棒に巻きつける



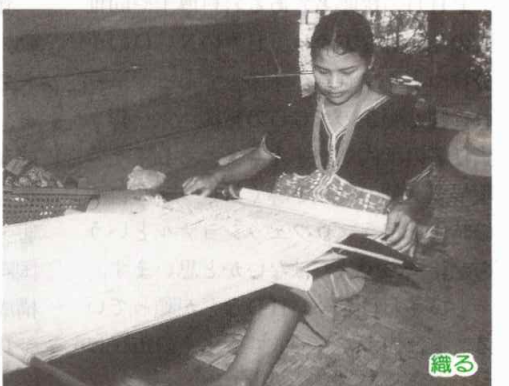
糸を紡ぐ



草木で染める



夕糸を張る



織る

### 見えてきた自分の心

秦朱美(37才)

旅行を続けているうちに以前から心に漠然とあった何かが、どうやら自分の進もうとしている道が、自分でもよくわからないために感じていた“もやもや”のように思えてきました。その心の乾いた部分にPHDとの出会い、タイに心がむかっていった3か月の出来事、タイの村の人々との出会い、そこでの経験、一緒に旅をした人たちの個性や人柄がしみこんでいくのがよくわかりました。こんな事をじっくり考えられたのも日常生活から少しの間離れて、ゆっくり自分を見つめる時間があつたからだろうと思います。娘に日本以外の世界を見せたいと参加しましたが、私自身がこんなに心ゆさぶられる旅になるなんて考えもしませんでした。これからは少しずつアジアを知ってい

たいと思います。

### 最年少参加者から一言

井上朔美(5才)

ぷりチャーさんのごちそうはとてもおいしかったし、しゅきあ(プリチャーさんの長男)もあばれて、さみによ(カレン語でネコのこと)はぢやられて、みんなおもしろかったけど、かあさんととうさんがいなくなると(暑さと食べすぎて父は病院へ、母は付添いで不在)こどもだからないた。

### 静かな時の流れ

藤岡佐知(27才)

川で沐浴をしたあとは、昼寝。家の床まで熱い。持ってきたチョコレートは、パッケージを傾けると中身がとろりと移動する。ここはプリチャーさんのふるさと、ホイラン村。午後5時を回り、西日がさし始めた。高床式の家屋の一角に炉がきつてあり、炭火の上にやかんがかけてある。チャンタナさん(プリチャーさんの妻)が、ハンモックに腰かけて、赤ちゃんに子守歌をうたっている。静かに時間が流れていくように、いつまでも印象に残る光景だった。プリチャーさんは布のグループのために、山に分け入って材料を採ってくることもあるらしい。グループに一所懸命協力している彼を、これから息長く応援したいと思った。

### 考える私 パート2

浅沼亨子(26才)

最終日のチェンマイの夜、あれこれとここまで見聞から思いをめぐらせた。観光開発に参与する日本。零落した農民や山岳民族の娘たちが観光産業で日本人を相手にして働いているという事実。貧しいということ、豊かということ。物を生み出すということ、金をかせぐということ。彼らを、我らの貨幣経済に巻き込むということ。体制の変革、価値観の注入、異文化を投入することによる数々の衝突、問題... 小さなもの、少ないもの、とどまるものを良しとする価値観と大きなもの、多いもの進んだものを良しとする価値観がぶつかりあっているのだ。

### 気になったこと

福岡智子(30才)

どんな山奥の村に行っても、わずかに3畳くらいの売店で合成洗剤が売られている。しかも、まるで日本でいったら試供品のようなお手頃サイズにしてある。その箱の蛍光色が素朴な村の自然の風合いの中で妙に怪しく輝いていた。

### 私も暑さでダウン

山本香(22才)

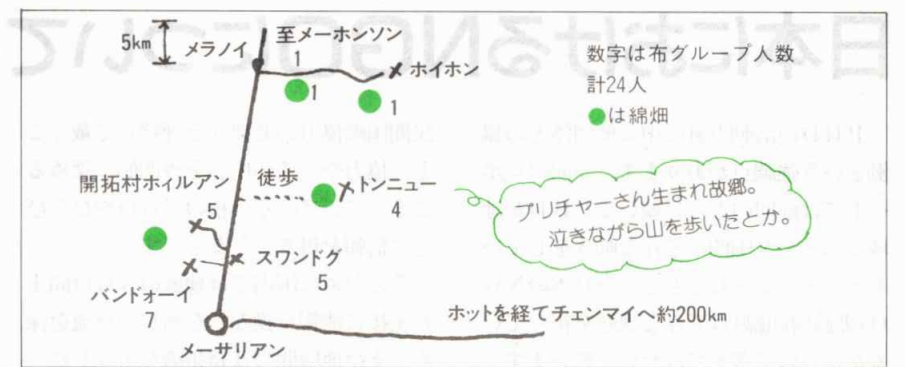
村で最後の日、熱が出た。私よりも重い症状の二人は病院にいった。翌日、私も病院に行き、診てもらった。私がビタミン剤が欲しいと頼んだら、「ここは村の人の為の病院で、ツーリストのためのそんな薬はありません」と言われ、はずかしかった。

### 村の織り手



いよいよ来日!

前から予告のタイからの織り手の女性を日本に迎えての交流。9月末から11月にかけて、各地で交わりの時を希望します。実演、展示即売も。



### 50枚のほんの一部ですが

麻野美智子(43才)

PHDのツアーは不親切だ。業者のツアーとちがいで、行く先々で丁寧な説明をしてくれない。チェンマイでは英語が何とか通じるものの村に入るとプリチャーさんしか頼れない。「交流」にきたのにこれは一体何だ。スタッフはカレン語ぐらい勉強しておけと、村に着いた当初不満でいっぱいだった。

この不親切の良さがわかってきたのは私がビール確保に積極的になってきた頃だ。黙って坐っっいては何もわからない、ツアーの自由放任主義で自分の旅が作れるのだ。ところがこの積極性も、村の生活を体験すると、あれやこれや知たがりがけずりまわるバカバカさが、ゆったりと流れる時間との対比の上で見えて

くる。村の人たちとまともな会話が交えなかったことに悔いは残るが、言葉だけでは表せない豊かさを短い内に語ってもらえたと思う。

### いっしょうけんめい 食べたよ

秦千尋(11才)

朝、顔を洗って戻ると隣のおじさんに呼ばれてごちそうになりました。するとまた別のおばさんも家に来てというので行くところでもごちそうになりました。そしてプリチャーさんのところに帰るとぶたのごちそうがありました。どうしてみんなか呼んでくれるのか聞くと遠くからの人なので来てほしいとのことでした。家ではそんなに食べないけれど、みんながよろこんでくれるので、いっしょうけんめい食べました。

# 日本におけるNGOについて…

PHDの活動方針の中に他団体との協働という強調点があります。今回のレポートでは前回のものについてPHDが地域で、また全国的にどんな動きをしているか、そしてそれをもとに今日のNGO(非政府組織)はどんな課題を担っているかについて考えてみたいと思います。

全国に約200団体あるといわれている「開発協力NGO」(南の人びとのために農村や都市の地域開発協力プログラムをもっているNGO)が直面している最大の困難な財政、人、組織の三点であるとよくいわれます。

これはつい最近まで日本が協力、援助を受ける国であったこと、従って市民の間に援助をする経験が十分ないこと、また援助についての動機はどちらかという情動的、一時的に災害など悲惨な出来事に敏感に反応しても、継続的、組織的、専門的に息の長い活動には強い反応が得にくい。

このようなわけで欧米のNGOのレベルに較べると、まだまだすべての面で初歩的な域にあるのが、PHDも含めて日本のNGOの現状です。

PHDの提唱者である岩村博士や同世代の先駆的な方々は、日本のNGOの草分けつまりフロンティアであって、それに続く現在のNGOの組織運営を担う責任者の世代がパイオニア、そしてその現場で活動の実践を導くスタッフが、次の時代を担うプロフェッショナルというのが組織の現状ではないかと思えます。

というわけで今PHDなどが願っていることは何よりも一人でも多くの市民に

民間国際協力の必要性を理解して戴くこと、協力や交流の内容を専門的に深めること、アジアの草の根のNGOやひとびとに信頼を得ることなどです。

そのために国内では地域のNGO同士が密接に情報交換などを通じて交流を深め、また地域間の連絡組織をネットワークする、さらにそれが全国的なものになり、ODAに対する政府との直接対話や日本社会全体へのメッセージの発信、また他の北のNGOや南のNGOとの交流折衝、こういった動きが今少しずつ生まれ始めています。



全国NGOの集い(御殿場にて)

PHDは、1986年に神戸の幾つかの団体に呼びかけて「神戸NGO懇談会」をまとめ、今年5年を経たのを転機に「神戸NGO協議会」と改称しました。

食品公害セミナーを通じた産消提携運動、朝鮮史を地道に研究するセミナーなどで有名な財団法人神戸学生青年センター、スモン病の被害者救済のために画期的な活動の後、その経験をアジアなどで被害に苦しむ人々に分かち合っている被害・医療被害情報センターなど「事柄の国際化」を実践するNGOなど六団体で構成しています。

1987年6月に東は名古屋から神戸まで

の15団体が日本で初めてNGO間の地域ネットワークを結成しました。その名は「関西国際協力協議会」。これに続いて10月に東京で「NGO活動推進センター」が組織されました。この東西のネットワークは性格を異にしながらも双方が積極的に交流し「ODAに関するNGO、学識経験者合同委員会」を結成し、ODAに対する提言などを行っています。さらに今年3月には、これら実践を基に「全国NGOの集い」を開催しました。

以上のように少しずつではあるけれども、着実にNGO間の対話と協同の輪は拡大しています。先述のすべての動きにPHDは中核的に関わってきました。

一昨年から政府は、援助先進国の助言も取り入れ「NGO補助金」制度を発足させました。又今年から郵政省の国際ボランティア貯金によるNGO支援も始まりました。基本的には歓迎すべき現象です。ただこのような補助制度に安易によりかかり自分達の会員獲得、市民からの寄附を得る努力を怠ると本質的な運動の基盤を失ってしまうことを恐れます。

日本のNGOの動きは大体10年。今どうしても主流の活動は日本からモノ、カネ、ヒトをもっていく援助してあげることに集中しがちです。しかしPHDのように相手の村の中に自分達が貧困を克服する動きを生み出す人づくりへの交流もまた大切だと思います。多様な活動の中から今NGOに問われているのはそのよって立つ基盤、事業の方法論、理念の確立ではないかと思えます。

総主事 草地賢一

# 国際交流で感じた事

熊谷 さやか(当時 敦賀北小6年)

私達の学校では、児童会の行事の1つとして、初めて国際交流を計画し、パプアニューギニア、タイ、フィリピンから3人のお客様をおむかえしました。3人の方々は、日本へ農業の勉強に来られたそうです。来られるまでは、(どんな人達だろう、どんな言葉が話すのか。日本語は通じるのか。)と言う事で私は頭がいっぱいでした。早く顔を見てみたい、しゃべってみたいとずっと思っていました。「国際交流の集い」の日が来た時、スライドを使って、母国の農業や生活の様子などを、日本語で一しげん命説明している事が私には良く分かりました。片言の日本語だけど、日本に来てまだ間もないにあれだけの言葉が話せるのはたいしたものだなあと思いました。私は、3人の説明を聞き、信じられないなと思った事

がいくつかあります。1つ目は、住んでいる家の事です。地面から家の床まで高さがあり、そこに牛やぶたが住む事です。やよい時代のしつ気を防ぐために作ったと言われた高床式倉庫を思い出しました。2つ目は、トイレやトイレットペーパーがない事です。そんな国の事を考えたら、紙のむだ使いなどもってのほかです。紙だと思ってむやみやたらに使い捨てるのではなく、まだ豊富に紙の使えない国があるのだから大切にしたいものです。私が一番おどろいたのは、貧しい家の子や学校から遠い家の子は学校に行けない事です。日本は義務教育なので、貧富に関係なくみんな教育を受ける事ができます。教育を受けられないと計算をすることも、字を書くことも教えてもらう事ができません。テストがいやだとか、宿題が多いと言うのはぜいたくなやみなのです。1日でも早く貧しい人、学校まで遠い人

の関係なくみんなが学校へ通える日が来るといいと思います。

タイの遊び、パプアニューギニアの言葉、フィリピンの歌などもおもしろ楽しく教えて頂きました。竹で編んだボールをけり合うタイの遊び、タクロウ。今でも覚えているパプアニューギニアのあいさつ言葉のありがとうを「ケ」を言う事。

はだの色や言葉は違ったけれど、こういう事を感じさせないくらいとても楽しく有意義なひと時を過ごすことができました。これからも、いろんな国の人達と交流を深め、おたがいに学び合い仲良くできたらいいと思います。

この3国は今、発展途上国なので日本の多くの良い所や技術を学び、自分の国の発展につくし、早く日本のようになってほしいと願っています。

本作文は敦賀市の青少年の作文コンクールの平成元年度最優秀賞作です。敦賀北小には、89、90年と研修生が訪ねました。

## PHD NEWS

### <会費・ご寄附寄託状況>

|       |    |      |            |
|-------|----|------|------------|
| 1991年 | 2月 | 153件 | 2,049,651円 |
|       | 3月 | 88件  | 1,811,585円 |
|       | 4月 | 516件 | 4,997,928円 |
|       |    | 757件 | 8,859,164円 |

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴致しました。ご協力いただき深く感謝申し上げます。

### <新しい理事に池野清和氏>

5月17日開催の第25回理事会において津田貞之氏が退任し、かわって池野清和氏が就任しました。

### <今年も出します PHD Tシャツ>

そろそろ恋しくなってきた、Tシャツ。あなたの胸にはネパールの少女が笑っていますか? PHDオリジナルTシャツで「分かち合い」して下さい。今年も、運動協力費込みで2000円の据置き。知らない人には伝えて下さい。分かち合いの輪、ひろげましょ。

### <カメラたくさん集まりました>

前号の呼びかけに答えて下さった方々と皆様より届くボランティアが1枚1枚貼ってできるロータスクーポンによって、9台のカメラが集まりました。ありがとうございました。

井上敬様・喜久子様・魚留信子様・松本直樹様・山口智子様

### <新職員を紹介します>

必死の引き止め工作にもかかわらず、加藤逸見の両囀託職員がそれぞれ家庭の事情などによりこの春退き、かわって兩名に勝るとも劣らぬ強力新人を迎えました。ひとりはお松みちさん。神戸市外大卒業後、3年の職場経験を経てPHDにデビューです。ずっとバレーボールをやっていたとかで、体育会系のノリとパワーで仕事にとりこんでいます。疲れがでけると独り言が増えるそうで、そうならぬよう皆さんのお支えを。もうひとりお99年から90年にかけて職員であった延安成美さん。9月までのショートリリーフの予定です。加藤さんは東京へ、逸見さんは岡山へ帰りましたが、それぞれの地でのPHDへの貢献の期待大です。

## 私もちよつと 世界を斬る!

### ドイツの街にて

川那辺裕子(西宮市・主婦)

昨年6月東西ドイツ統一前の西ドイツを旅する機会を得た。

フランクフルト空港着後、トイレに入ると直径30cm位の大きなアルミ製のホルダーに、再生紙100%で無漂白のペーパーが巻かれていた。

最初の目的地ゲーテハウスを見学したが、階段を踏みはずす位の暗さなのに電灯はつけられていない。ドイツ生活経験の有る父から「よほど暗くならないと電

灯をつけないんだよ」と聞かされていた事を思い出した。

翌朝散歩に出かけたが公園が多く緑あふれる環境の中で小鳥たちの爽やかな声、教会のチャイム、自然とのハーモニーに感動しつつ思い切り深呼吸をした。

売店で500cc入りの牛乳を買ったが勿論論容器は瓶である。自動販売機はほとんど見当たらなかった。

中世のたたずまいのロマンチック街道を巡ったが、建物は昔のままでちよつぱり化粧し直された家々の窓辺には、こぼ

れそうに花が植えられていた。古い物を大切にドイツ人の気質を感じた。それに比べ、日本は何か何でも新しいものをの風潮、第三世界の人々の生活を脅かしているのではとの思いが頭をよぎる。

飲食店以外ほとんどの商店は平日は午後6時半迄。土曜日は午後から、日曜日は終日閉店。土日に稼ぐ日本とは大違い。

新製品を次々に開発して深夜営業迄して販売する日本、ごみにうずもれる日が近い将来訪れるのではと、不安に思わずにはいられなかった。

## ○月×日のPHD

総主事・草地 神戸にある民間国際協力交流団の寄り合い神戸NGO協議会のシンポジウムにパネラーとして出席、参加者を大いにアジテートする。

主事・藤野 タイ布ツアアの道中、バンコクチェーンマイ間の飛行機の中で痴漢がいるから席を代わってと同行メンバーからの訴え。タイにもいるかと妙に納得。

主事補・中尾 この時期、通常の倍の研修生を抱えフーフー。疲れると熱がでるサイクルがこれまでの3カ月に一度から月イチになり、苦勞が忍ばれる?合掌。

囀託・小松 期待の新人。高給優遇の前職場からの転身。きわめて幅の広い業務内容に消化不良気味、特技のバレーボール仕込みの回転レシーブでも拾いきれず。

囀託・延安 一旦職員を退くも、熱烈なアンコールに応え、再度登場。淡々と仕事にあたるも、データ入力時にコンピュータを叱りつける場面しばしば有。

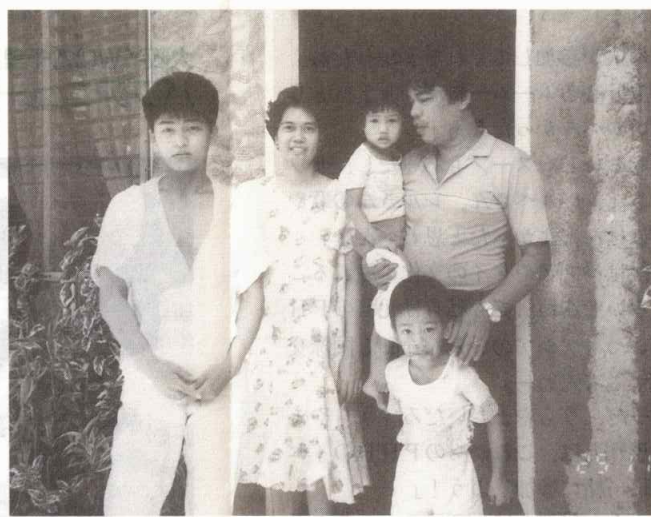
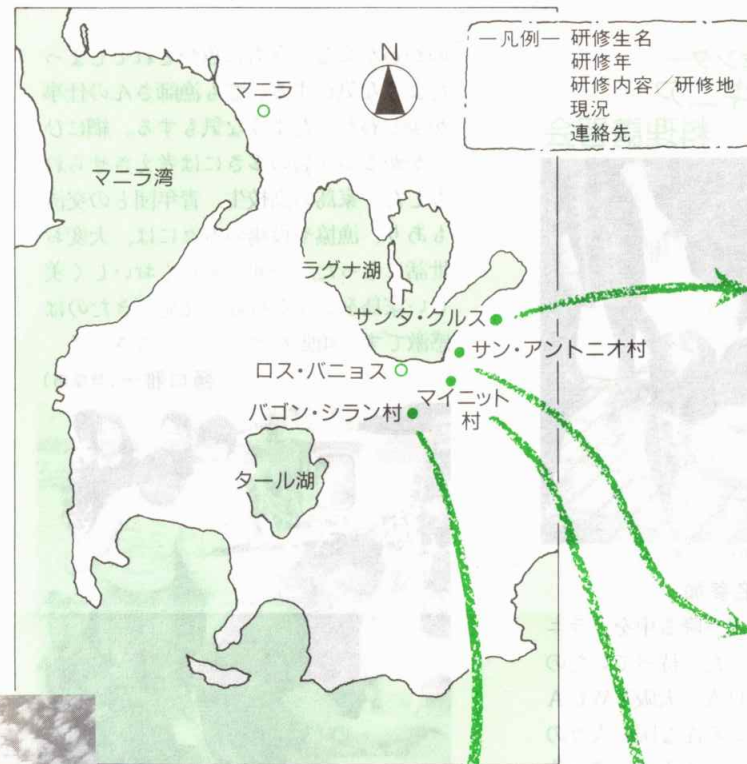
元職員逸見さん 4月中端で退職するもしばらく神戸においてのことで、9人の研修生を抱える事務所をヘルプ。今日は8期生ヘルペさんの付添いで栃木へ。

研修生ホストファミリー、89タイツアー参加の樋口雅一さん、9期生の日本語復習係、マミムメセッション運営と連日おこし。今や事務所にかかせぬ存在。

神戸外大の新1年生、篠原、新村、廣田、川村、野田さん続々と参画。若い力に期待がかかる。でも全員女の子。来たれ男。

新規会員・寄付者ご芳名は、  
個人情報保護のため  
掲載していません。

面積：29.9万km<sup>2</sup>  
 人口：5969万人  
 住民：マレー系を主体に中国、スペインとの混血その他少数民族  
 宗教：カトリック85%、その他のキリスト教5%、イスラム教5%  
 言語：タガログ語、セブアノ語、イロカノ語等多数。公用語として英語  
 通貨：ペソ（1ペソ≒¥5.60）  
 日本からのODA額：約558億円  
 モノの流れ：日本→フィリピン：自動車、鉄鋼など約3284億円（1989）  
 フィリピン→日本：銅・ニッケルなどの非金属、バナナ、魚介類など約2843億円（1989）



**1期**  
**マノリト・ロサーナさん** 36才  
 Mr. Manolito Rosana  
 ・82.7~83.6  
 ・農業 兵庫県篠山町、神戸市他  
 結婚をし、それまで住んでいたタグンバイ村から車で20分程の町サンタクルスに移り、男女各1の子供と奥さんと暮らしています。一時期取り組んでいたアヒルの養殖はうまくいかなかったようで、現在は実家の母親の土地ともう1カ所1haの土地を借りて稲作、畑作が中心です。奥さんもラグナ湖の養殖試験場で仕事をしており、この地域の環境問題にも関心を寄せています。

2843 Pagsawitan, Sta Cruz, Laguna, Philippines  
 兵庫県篠山町の研修指導者 溝口さんの息子恒平くんが訪ねた。



**1期**  
**コンラド・パニサレスさん** 59才  
 Mr. Conrado S. Panisales  
 ・82.7~83.6  
 ・漁業 近江八幡市、宇和島市、明石市、寝屋川市他

8人の子持ちのパニサレスさん。そのうち2人は結婚をしました。ラグナ湖の南岸のサンアントニオ村での漁業が1980年ごろから低調になるにあわせ、獲る漁業から育てる漁業に仕事をきりかえてきましたが、現在はピラという町の養殖場の現場主任として若い作業者を指導しています。テラピアやキャットフィッシュ等の食用と一部鑑賞用の魚も扱っています。沢山ある池には日本の鯉もいました。ラグナ湖の汚染が漁民の生活を直撃していることを話してくれました。

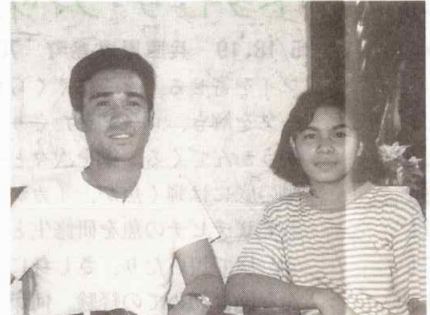
Brgy. San Antonio, Bay, Laguna, Philippines



**2期**  
**レネ・プリズさん** 30才  
 Mr. Rene Briz  
 ・83.12~84.11  
 ・農業 名護市 広島県庄原市、出雲市他

帰国後しばらく親と一緒に果樹栽培をしていましたが、独立し、現在はバゴン・シラン村に移りました。身重の奥さんと子供は2人です。日本に来たときに肺結核がみつかりしばらく治療をしましたが、今はとても元気でバナナ、トウモロコシ、サツマイモなど畑作に取り組んでいます。いわゆる開拓村で山の土地なので灌漑が十分でなく、米はできないところ。一時期、出稼ぎも考えたこともあったのですが、腰を据えて農業に取り組んでいる様子に安心しました。

Brgy. Bagong, Silang, Los Baños, Laguna, Philippines

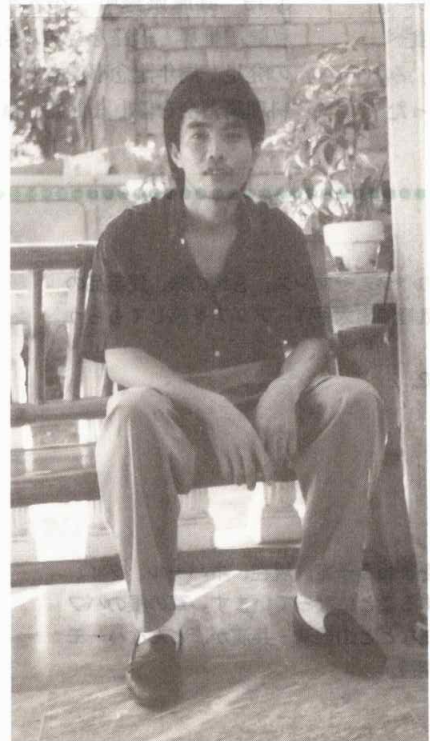


ウィリーさんと妹のルシルさん。

**2期**  
**ウィリー・ラニブさん** 32才  
 Mr. Wilfred Lanip  
 ・83.1~84.11  
 ・農業 石垣市、嘉手納町 庄原市 出雲市 兵庫県南光町他

結婚後、住まいをこれまでの村トランカから数キロ離れたマイニット村に移し、IRRI（国際稲研究所）で農作物の病気対策の仕事についています。彼の気持ちとしては、もっと直接、住民に貢献できる仕事が望みなのですが、臨時雇いからやっと正雇用になり一定の収入が得られる今の状況からの転職は、就職難のこの地ではリスクが高すぎるようです。家族は奥さんと子供が2人になりました。職場外でも彼の真面目な考え方がまわりの人々に今以上に浸透することを期待します。

C/O Epidemiology Sec. Pathology Department IRRI Los Baños Laguna, Philippines



## 私が感じたフィリピン

「また出かけます。フィリピンへ」



丸山陽子（主婦・加古川市志方町）

ウィリーさんを初め、多くの研修生のお母さん。86年3月、息子の智くとラグナを訪問。

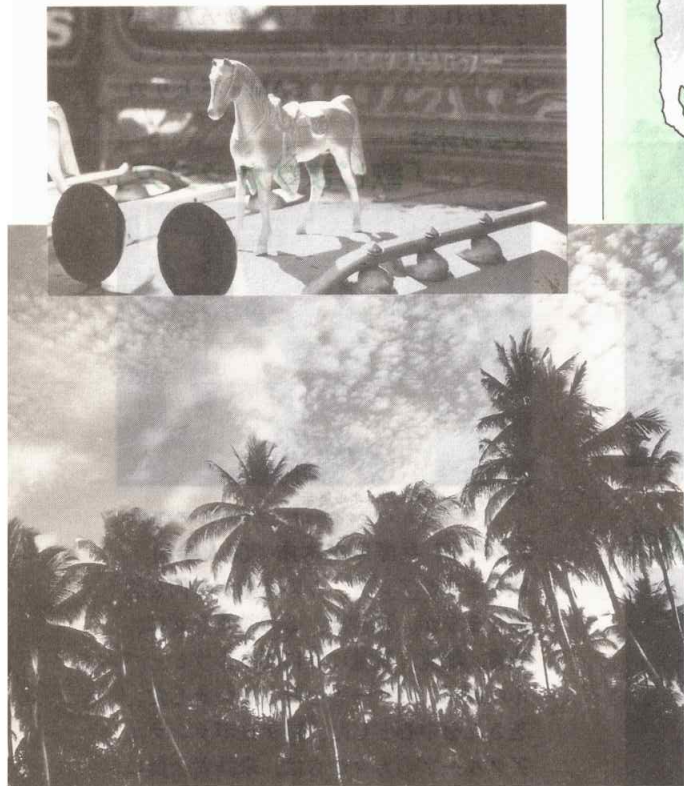
海外に出た初めての国フィリピン。何もかも珍しくびっくりすることばかり。テレビ等で見えて知っているつもりだったが自分が思っていた考えの半分にもならないように思った。その国に入りその村人と共に生活してみて、日本はなんと恵まれた、贅沢な生活だ「もったいないなあ」と反省してしまった。物もありすぎる。もっと考えなくては！でも彼らは、

私達に最高のもてなしをしてくれた。1年に1度食べるか食べない様なごちそうを…日本では贅沢していても何も感じないだろう。普通の暮らしと思うだろう。私もそう思っていた。でも日本で忘れかけている隣人愛・人情、これがある。これを求めて旅に出かけるのかも知れぬ。私達がツアーで出かけた時、選挙後すぐで、アキノが農地開放等をスローガンにして当選したが、今だに実施されていないし、マルコス時代より悪いと聞く。農民が耕作地を持たば一生懸命働かし、食糧も満たされるし、村民全体が潤うのではないのかな！早く安定した楽しい暮らしが出来様に望む。

でもアジアの旅で何かがあるのだと思う。品物、食べ物、何も無い。でも何かあるのだ…我が町の子供達も色々な国、ファミコンもテレビもまして電気のない国に出かけて行って、元気一杯になって帰ってくる。もう二度と行かへんで、という子供は誰もいない。なぜだろう、どこがいいのだろう。子供だけじゃない。私達夫婦、いつも同じだ。初めて村に入った時は必ずえらいところへ来たなあ…帰る頃になるとなんとなくほんわか…とした気持ち、家に帰って楽しかった事ばかり思い出して、また必ず出かけるで、となる。いつも同じだ…  
 アメリカでは違う。なんとなく違うんだから…また出かけて行きます。フィリピンへ。



市場は熱帯のくだものでいっぱい!



乗合いバス。ジブニーはとてもきらびやか。

7千余の島から成るフィリピンは、大阪から飛行機で3時間半。ヘタな国内移動より早く行けるところにあり、ルソン、ビサヤ、ミンダナオの3つの地域に大別されます。

歴史的には長らくスペインの植民地とされその後米国、日本の支配のあと独立しました。86年2月にピーブルズ・パワーに支えられ、マルコス→アキノの政権交代があり、対外債務、失業、土地改革などの問題改善に期待がかりましたが、依然として民衆の生活は楽になっていません。バナナやエビの輸出、外国企業の活動、米国基地、日本からの政府開発援助、出稼ぎ労働者等、南北問題の様々なケースをこの国との関係の中にも見てとることができます。

数多くの困難な状況がありながらも、フィリピンの人々はくじけず、明るさを失っていません。陽気で、寄り合うことの大好きな人々、サリサリ（いろいろ）でハロハロ（種々雑多）なものがまざり合った文化。魅力尽きない人とところ。魅力尽きない人とところ。

### 水俣より友を迎えて…



\*モンキーセンター中橋所長の説明をきくメンバー、中央金子さん、サムスアリスさん

3/21~24 神戸、淡路 50名参加

3月21日~24日に研修生が毎年、西日本研修旅行で伺う水俣より金子雄二さんがPHDを訪ねて下さった。滞在中、神戸と淡路ではSAM(世界と淡路を結ぶ会)の協力を得て金子さんを囲み、会を2回開いた。胎児性水俣病患者でもある金子さんの経験を通して、若い世代にとって教科書の中のみで知っていた水俣公害の問題をとらえることができた。また、折りしも来神中であつたやはり西日本研修旅行の際に知り合った広島県の篠原さんを中心とした若いボランティアと共に淡路モンキーセンターも訪ねた。

逸見広心(神戸市)

### 炭焼・パン焼体験合宿

「真っ赤に燃えて!!」



\*大森さん(左)の指導で出来あがった炭をかきだす

4/27~29 兵庫県和田山町 40人参加

れんげ畑やガタゴト山道を幾つも抜けて「ワダヤマハトオイデスネー」やっ

到着。静かな山懐で、大森さんご夫妻と五人のお子さん達と我々の、にぎやかな二泊三日が始まりました。晩御飯もカマドに火をおこし、畑で野菜を採り、鳥を絞めて。炭焼きは、但馬農高の生徒さんたちも合流して、小川を跳び越え、道無き山肌を登り、たどりついた炭焼き場では丸太を割り、真っ赤になった炭を掻き出し、灰で真っ白になってそれに砂を掛け…。教室の中では、ただただ可愛い研修生が、山の中では頼りになる仲間でした。早くビルの中の勉強から解放して広々とした土の上へ、そこで働く温かい人達との交わりの中へ送り出さなければ、と思いました。

YMCA日本語教師・三上展(西宮市)

### パプア・ニューギニア料理ハイキング ムームーハイキング



\*焼いた石の上にバナナの葉を敷き、肉や芋をくるんで、また埋める正統ムームー料理。実演指導はレルさん、ヘルベさん。



\*食事の後はパフォーマンス、レルさんの演技は大ウケ。

5/6 神戸市六甲山 170人参加

「5月6日のムームーハイキング、たく

さんの人が参加してくれてよかったね」「でも肝心のムームー料理がちよつとうまくいかへんかったなあ」

「でもおいしいスープもあつたし、サウエーさん、ヘルベさん、レルさんの歌や踊りはほんときよかつたと思わへん?」

「普段はパプアやタイの文化に触れることはないもね。でも私らは元町のPHDでいつもアジアのいろんな国と国際交流してるもね」

「どーだ、うらやましいだろ。うらやましく思う人は、これからのPHDのイベントと一緒に参加しよう!」

\*ムームー料理とはパプアニューギニアの蒸し料理のことです。

篠原登子&新村智子(神戸大1年)

### 野草を食べる会

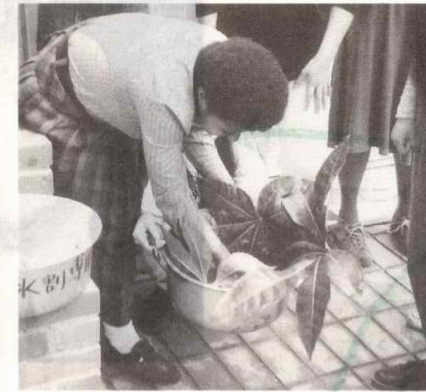


\*野草の説明をうけるジャネットさん

5/11,12 兵庫県八鹿町 50名参加

但馬PHDのメンバーが加わる「野草を食べる会」の行事にお招きを受け、3名の研修生と私たちは妙見山へ。一息ついて野草採集。様々に料理された10種を越える野草を、竹の節を利用した手作りの器などでいただいた。翌日は雨のなか、赤米の田植えを見学。ナンダナさんとジャネットさんは慣れた手付きで田植えをしていた。昼食に、赤米の甘酒とお粥をいただいた。今回、個人的に最も感激した味は赤米のお粥だ。ごちそうさまでした。片岡真里子(同志社大3年)

### 大阪YWCA千里センター パプアニューギニア料理講習会



\*バナナの葉をヤツデで代用しての蒸し料理。

5/12 吹田市 30名参加

5月12日、雨がポツポツ降る中を、ラーニーさんは来てくれました。待っていたのは中学生・高校生が11人。大阪YWCAの地球人倶楽部で、いろんな国の人々の生活を楽しく勉強しています。一緒に作ったパプアニューギニア料理。タロイモのかわりにさといも、じゃがいも、さつまいも。バナナの葉ならぬやつでの葉だったけど、ホカホカでおいしかったです。やさしいラーニー先生の味がしました。今度は私たちがパプアニューギニアに行って、村で生活したいなあ。

大阪YWCA千里センター 田中亚子

### スマトラの漁師と漁業体験 「トライ・ザ・フィッシング」

5/18,19 兵庫県家島町 70名参加  
ブイを寄せる。そこにくくられているロープを解き、ロープをたぐりよせる。網がうかんでくる。網を次々と引き揚げる。網の底には輝く魚が、イカが、タコが…。浜でピチピチの魚を研修生と一緒に食べる。炭で焼いたり、さし身にしたり。みんな漁は初めての経験。何がどうなった

のかわからないうちに魚がとれてしまったような気がする。でも漁師さんの仕事がいかに大変な仕事かという感じがする。網にひっかかるポリ袋の多さには考えさせられました。家島の高校生、青年団との交流もあり、漁協や役場の方々には、大変お世話になった。今回、楽しくおいしく美しい家島をこんな身近に見てきたのは感激です。頑張れサムスアリスさん!

樋口雅一(芦屋市)



\*定置網にかかったタイをとりあげるサムスアリスさん

### SAMフィリピン料理講習会



5/19 兵庫県緑町 20人参加

私達「世界と淡路をむすぶ会」(SAM)の発足一周年記念事業としてフィリピン料理講習会を開催しました。講師に9期生

のジャネット・バテルナさんを招き、アドボ(鶏肉の酢炒め)とパンシット(ビーフン焼ソバ)の作り方を教えてもらいました。

淡路は今まさに農繁期、玉ねぎの収穫の合い間をぬってかけつけた参加者もいて(お陰で新鮮な玉ねぎが食べられました。)バタバタ、ワイワイ、ガヤガヤ、楽しく料理が出来上がりました。でもやっぱりジャネットさんが作った方が美味しくて、みんなの手がどンドン彼女のお皿へ伸びて行くのでした。「おいしい」と言われる度にちょっとはにかんだジャネットさんはとってもチャーミングでした。

SAM・石上リカ

### スタジオ遊 「歓じますかアジア」



打ちっぱなしの壁へのパネル展示。インドネシアやタイの太鼓と奥様ボランティアたち。

5/24~27 兵庫県三木市 200人参加

歓じますかアジア、この言葉から何を想像しますか。私達は、この言葉を元に、味覚、聴覚、視覚に直に訴えようと、パネル展示、パザール等をおこないました。芝さんを中心とした、緑ヶ丘ボランティアグループの方々からは、来訪者全員にチャイをくばられ、日本茶とはちがう味に、いろいろな感想をのべられてました。また、スライドの上映、ネパール、パプア・ニューギニア料理を作ったり、BGMには、アジアの音楽を流したりと、ドゥプリとアジアにつかった4日間でした。小松みち

## ① 草の根生活塾

今年もやってくる草生塾の季節。

築後200年萱葺きの農家を舞台に川の水を汲み、カマドで炊事の生活。スライド上映、研修生の話、パフォーマンス、手作り料理から南太平洋・アジアに接近。農体験にキャンプファイヤーと充実の5日間。小中高生の人から、リーダー役の一般・大学生まで。素敵な体験を約束します!

7月24日~28日、兵庫県篠山町・丹南町で。

## ② 水俣スタディーツアー

3月来神して下さった金子さんたちを訪ねる。研修生サムスアリスさんと、8月の筑豊、水俣、長崎へ、環境と平和を考えるツアーを行います。同行者募集中。

8月4日~9日を予定。

## ③ 林業体験合宿「枝打族」

東北タイから迎えたサウエーさんとともに、下草刈り、伐採、枝打ちを体験し、日本の林業を知り、環境、リゾート開発、熱帯雨林の問題を考えます。

兵庫県丹南町で8月20日すぎに3泊4日を予定。各研修指導先のご家庭、森林組合、森と生活を考える会「ウータン」にご協力頂きます。

## ④ タイの布の織手を迎えて

89年から始まった布を通じた国際交流。村から織手の女性を招き、各地で実演や交流会と今後の村の布づくりの品質向上に役立つ研修を実施し、即売会も行います。9月下旬から11月上旬迄。

淡路国際線日から登場の予定。受け入れ地も募集中。各地の布の集まりによって下さいませ。

## ⑤ 淡路国際縁日

海外と淡路の舞踊、歌などのパフォーマンス、各地の味、民芸品の販売、情報コーナーなど、気軽に南太平洋・アジアを感じてもらう2日間。

9月28日~29日 洲本市で。

## ⑥ 芸能交流

10月20日を皮切りに、各地をまわる予定。現在、ネパール、タイ、フィリピンの村からお招きすることになっています。草の根のパフォーマーと開催地の伝統芸能などの競演・共演が、どんなハーモニーを織りなすか、乞うご期待。

## ⑦ PHD運動10周年記念式典

PHD運動の10年を支えて下さった多くの方々を集まっていたいで会。提唱者の講演を聞き、2001年にむけて意を新たに、日頃交わることの少ない全国の会員・協力者同士の交流を図ります。さらに草の根ネットワークを広げるための式典です。宿も用意しておりますので、ぜひぜひ、ご参加下さい。

11月3日午後から、於神戸市西山記念館

●●●マミムメセッション事務局より●●●

毎週土曜午後6時から、実行委員会を事務局で行っています。ボランティアのスタッフが集まって、企画運営をしています。ふるってご参加を!

●3月タイツアーレポートは本誌に掲載

●その他、シンポジウム、交流会等、まだまだあります。

予 告